

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

ある寒い日の午後、私は食後の茶でくつろいでいた。表に人の気配がしたので、振り向いてみた。思わずあつと声が出かった。急いで立ち上がったて迎えた。

来た客はルントウである。ひと目でルントウとわかったものの、そのルントウは、私の記憶にあるルントウとは似もつかなかった。背丈は倍ほどになり、昔の艶のいい丸顔は、今では黄ばんだ色に変わり、しかも深いしわが畳まれていた。目も、彼の父親がそうであったように、周りが赤く腫れている。私は知っている。海辺で耕作する者は、一日中潮風に吹かれるせいで、よくこうなる。頭には古ぼけた毛織りの帽子、身には薄手の綿入れ一枚、全身ぶるぶる震えている。紙包みと長いきせるを手でサげている。その手も、私の記憶にある血色のいい、丸々した手ではなく、太い、節くれだった、しかもひび割れた、松の幹のような手である。

私は、感激で胸がいっぱいになり、しかしどう口をきいたものやら思案がつかぬままに、ひと言、

「あアルンちゃん——よく来たね……。」

② 続いて言いたいことが、後から後から、数珠つなぎになって出かかった。チアオチー、跳ね魚、貝殻、チャー……。だが、それらは、何かでせき止められたように、頭の中を駆け巡るだけで、口からは出なかった。

③ 彼は突つ立ったままだった。喜びと寂しさの色が顔に現れた。唇が動いたが、声にはならなかった。最後に、うやうやしい態度に変わって、はつきりこう言った。

④ 「旦那様! ……」

⑤ 私は身震いしたらしかった。悲しむべき厚い壁が、二人の間を隔ててしまったのを感じた。私は口がきけなかった。

彼は後ろを向いて、「シュイション(水生)、旦那様にお辞儀しな。」と言って、彼の背に隠れていた子供を前へ出した。これぞまさしく三十年前のルントウであった。いくらか瘦せて、顔色が悪く、銀の首輪もしていない違いはあるけれども、「これが五番目の子でございます。世間へ出さぬものですから、おどとしておりまして……。」

母とホルルが二階から下りてきた。話し声を聞きつけたのだろう。

⑦ 「御インキョ様、お手紙は早くにいただきました。全く、うれしくてたまりませんでした、旦那様がお帰りになると聞きまして……。」と、ルントウは言った。

「まあ、なんだってそんな他人^⑧行儀にするんだね。おまえたち、昔は兄弟の仲じやないか。昔のように、シュンちゃん、でいいんだよ。」と、母はうれしそうに言った。

「めっそうな、御インキョ様、なんとも……とんでもないことでございます。あの頃は子供で、何のわきまえもなく……。」

そして、またもシュイションを前に出してお辞儀させようとしたが、子供ははにかんで、父親の背にしがみついたままだった。

〈魯迅作 竹内好訳「故郷」より〉

1 線⑦⑧の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 線「松の幹のような手」に使われている表現技法を漢字で書きなさい。

3 線①「私の記憶にあるルントウ」の様子に分かる表現を、文章中から六字と十一字で二つ抜き出して書きなさい。

4 線②「続いて言いたいことが、出かかった」とあるが、「私」がルントウとの再会を期待していたこととして、最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 少年時代には不十分だった二人の冒険の続き
イ 少年時代のような家族ぐるみの付き合いの継続
ウ 少年時代を懐かしお楽しい思い出の交流
エ 少年時代以降、交際が途絶えていたことへの謝罪

5 線③「喜びと寂しさの色」とあるが、どのようなことへの「喜び」と「寂しさ」なのか。「こと。」につながるように、それぞれ十五字以上二十五字以内で書きなさい。

6 線④「旦那様! ……」というルントウの言葉は、「私」へのどのような気持ちから出た言葉だと考えられるか。最も適当なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア 心の底から尊敬する気持ち
イ 皮肉を言って、からかう気持ち
ウ 身分差から、立場をわきまえる気持ち
エ 冗談を言って、驚かそうとする気持ち

7 線⑤「私は身震いしたらしかった」とあるが、自分の行動にもかかわらず、「らしかった」と表現していることから、「私」のどのような様子を読み取ることができるか。「理解」の一語を使って、二十五字以上三十五字以内で書きなさい。

8 線⑥「何のわきまえもなく」とあるが、どのようなことが「わきまえもない」のか。二十字以上三十字以内で書きなさい。

9 「私」とルントウの身分や境遇の違いをたとえた表現を、文章の中から八字で抜き出して書きなさい。

次の二つの文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(字数制限のある問題では、句読点、記号も一字と数えなさい。)

① 私は研究者として環境問題に携わっている。しかし、仕事帰りに立ち寄るスーパーで豆腐が十円引きだとちよつとうれしくなるような、ごく普通の市民でもある。そんな私たちが、無理なく納得して環境問題に取り組むために、今、何が必要だろうか。環境保全というと、ごみ拾いのボランティアやこまめな節電、募金などを思い浮かべる人もいるだろう。これらの取り組みは、確かにすばらしい。しかし、このように個人の良心や自己犠牲に依存する社会では、地球環境は守れないと私は考えている。

では、どうすればよいのか。個人に負担を強いるのではなく、社会全体で解決する工夫が必要だ。例えばスーパーで食材を選ぶ際、私たちはなるべく安くおいしいものを選ぶ。あたりまえだ。このよきな人間の「あたりまえ」を利用して、環境を守る仕組みを作るのだ。A、安くおいしいものを選んだら、最も環境にいい商品だった、という状況を作り出せばよい。こんな都合のよい状況の実現のために「インセンティブ」という考え方が使える。これは経済学の用語であり、人々の意思決定や行動を変化させる要因のことだ。例えば、政府が環境にいい製品に補助金を出すことで、その製品の価格は安くなり、消費者に人気が出る。逆に、環境に悪い製品には補助金が出ないの、価格が高くなり、あまり売れなくなる。このように、セイス決定者がしつかりとインセンティブを実施すれば、「お買い得」みたいな言葉に弱い我々でも環境保全に貢献できる。

とはいえ、「環境に配慮されていなくても、私はこの製品を選びたい」という人もいるだろう。インセンティブは、そういった意見や行動も否定しない。選択の自由と多様性を維持したうえで、社会全体をエコな方向にもっていくという考え方のなかだ。

環境保全のことを考えるときには、熱意をもって活動に取り組む人々に注目が集まることが多い。だが、世の中にはさまざまな考えをもった人たちがいる。そのような人にも通用するような現実的な仕組みが、環境問題の解決には求められるのではないだろうか。

〈伊勢武史「社会全体で解決できる仕組みを作る」より〉

② 私は長年、テレビ局のプロデューサーとして環境問題をテーマにした番組を制作し、専門家や企業の担当者取材を重ねてきた。今、私たちは地球温暖化をはじめとする深刻な気候危機のただ中にいる。科学者たちは、目前に迫る二〇三〇年までに二酸化炭素の量を半減させなければ、温暖化の進行はより早まり、被害が深刻化する。ケイシヨウを鳴らしている。

では、温暖化を止め、地球環境を守るために、私たちに何ができるのだろうか。世界各地で取材を続ける中で、私たちがどり着いた答えは、「市民一人一人が行動を起こすこと」だ。気温の上昇を止めるために、すぐにも取り組めることは、たくさんある。電気をこまめに消すこと。自転車や公共交通機関を使うこと。木を植えること。マイバッグを持ち歩き、プラスチックなど石油製品の使用を控えること。

B、そんな小さなことの積み重ねで、本当にこの状況が変わるのかと感じる人もいるだろう。確かに、個人がこうしたことに取り組むだけでは、温暖化は止まらない。一人一人の直接的な力はとても小さい。しかし、もし膨大な数の個人が一度に行動を起こせば、どうだろうか。国や企業も活動の方針を変えざるをえなくなる。多くの人が行動を起こせば、間接的に世の中を動かす効果があるのだ。

身の回りでも既に変化は現れ始めている。例えば、店舗の電力を一部、再生可能エネルギーに切り替えたり、商品の包装を削減した

・複数の意見を読んで、考えよう

りする企業が増えている。私たち消費者が、持続可能性に配慮した商品を選ぶようになれば、企業の態度は変化する。一人が踏み出す一歩は、実は大きな一歩なのだ。どんなに難しい問題の解決も、最初はたった一人が動き出すことから始まる。何より大事なものは、そのとき、「声を上げること」だ。気候危機を食い止めたという熱意を「声」にして働きかければ、周囲の人々の行動が変わる。それはいつしか大きな流れとなり、企業を変え、社会を変える。一人でも多くの人が、環境問題を自分のこととして捉え、今すぐ行動を起こすことを期待している。

〈堅達京子「一人が踏み出す一歩は、実は大きな一歩」より〉

1 線①の漢字には読みがなをつけ、かたかなは漢字に直しなさい。

2 線a「そんな」b「ない」の品詞名をそれぞれ漢字で書きなさい。

3 A、Bにあてはまる言葉として適当なものを次から一つずつ選び、記号で答えなさい。

A また イ だが ウ つまり

4 線①「何が必要だろうか」とあるが、筆者は何か必要だと述べているか。文章中から十一字で抜き出して書きなさい。

5 線②「インセンティブ」とは、この文章ではどのような意味で使われているか。文章中から十八字で抜き出し、始めと終わりの五字を書きなさい。

(2) この文章での「インセンティブ」の考え方として、適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

A 環境に配慮されていない製品を選ぶ人を批判し、社会全体で環境保全を急速に進める考え

I 環境に悪い製品を製造する業者を厳しく弾圧し、環境に配慮された製品だけを流通させる考え

ウ 補助金をコントロールすることで物価の上昇を抑え、社会全体を自由で豊かなものにする考え

E 個人の意思を尊重しつつ、社会全体が環境に配慮できるような仕組みを構築していく考え

6 線③「深刻な気候危機」の中で、筆者は私たちにできることとは何だと考えているか。文章中から十五字で抜き出して書きなさい。

7 線④「本当にこの状況が変わるのか」と感じる人に対し、筆者はどのように述べているか。「直接的」「間接的」「行動」の三語を使って、四十文字以上五十文字以内で書きなさい。

8 ①、②の文章の内容として適当なものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

A ①では、個人の行動が社会に与える影響に注目し、一人一人が積極的に行動するべきだと述べている。

I ②では、個人に注目するのではなく、仕組みを整えることで環境問題を解決するべきだと述べている。

ウ ①も②も、社会全体を変える必要性を述べているが、②は個人の行動に注目して意見を述べている。

E ①も②も、科学的な根拠に基づいて現状を理解し、問題を解決する方法を考えるべきだと述べている。

9 ①、②の文章を比較したとき、あなたはどちらの意見に賛成か。立場と理由を明確にして、六十文字以上七十文字以内で書きなさい。ただし、一文でも二文以上でもよい。